



卒業に向けて！

来週から3月に入ります。3学期の始業式がついこの前のように思われ、時の経つのが早く感じられます。まだまだ寒い日もありますが、着実に春の足音は聞こえてくる季節となりました。

学校では、1,2年生の期末テストが先週終了し、卒業に関わる諸行事や式に向けて練習に取り組んでいます。厳粛で盛大な、そして感動的な卒業式となるよう、生徒・教職員一同、心を込めて準備や練習を進めているところです。3年生にとっては、中学校生活も残すところ2週間あまりとなってしまいましたが、一日一日を大切に、気を抜くことなく学校生活を送ってほしいと願っています。立派な卒業の姿が見られることを期待しています。

後期生徒会総会を開催！

22日(月)の午後に、後期生徒会総会を開催しました。平成27年度の反省を生徒会執行部、各専門部、部活動の順番に発表し、その後会計決算報告を行いました。各議案とも全校生徒から承認を得ることができました。教頭先生からの講評では、前生徒会役員の生徒に労いの言葉もありました。



各種の表彰伝達を実施！

生徒会総会終了後に、各種の表彰伝達を行いました。今回も運動面と文化面での活躍がみられ、たくさんの表彰がありました。



《二中生の活躍》

協会杯中学生インドアソフトテニス大会
男子の部 優勝 長崎 夕・根本武尊
3位 吉田英斗・曲山晃生
女子の部 優勝 佐藤未羽・橋本千奈
県中ジュニアバドミントン大会
男子シングルス
ブロック 1位 熊田 一樹
1位 大橋 颯人
2位 榎本 陸
男子ダブルス
ブロック 2位 熊田一樹・大橋颯人
県中教育リーグ野球大会
Hリーグ 優勝
ユネスコ平和作文表彰
岩瀬地方市町村会長賞 石井 夢乃(2年)
優秀賞 福島菜月 鈴木侑季乃(3年)
優良賞 西間木涼乃 鈴木陽菜(2年)
長沼 莉子 関 陽(3年)

卒業式練習が本格化！

19日(金)の6校時から、卒業式に向けて全校生での合同練習が始まりました。第1回の合同練習では、礼法や合唱の練習を中心に行いました。



また、22日(月)から朝の合唱タイムも始まり、朝から歌声が校舎内に響いています。

これから卒業式までの間、感動を与えられるよう練習に励んでいきたいと思えます。



新入生保護者説明会を開催！

18日(木)の午後2時から、本校体育館において新入生保護者説明会を開催しました。新入生は238名となる予定です。

会の中では、本校教育の概要、中学校の生活、入学式や諸準備等について、各担当から説明をしました。



また、講話として須賀川警察署生活安全課の古川淳子様から、少年非行の概況についての話をいただきました。特に携帯電話等を使用するの被害が増加しているとのこと。犯罪に遭わないためにも、携帯電話の所持や使用では、つねに危険があることを肝に銘じておきたいものです。



PTA専門部会を開催！

19日(金)の午後6時30分から、PTA専門部会を開催しました。27年度の事業報告、28年度の事業計画を全体で協議した後、各専門部会に分かれて、活動の反省と次年度への要望等についての話し合いをしました。ご出席ありがとうございました。



どんな学習法が自分に合っているのか？

同じ時間をかけて勉強しても、効果の上がる人と上がらない人がいます。人それぞれ自分に合う学習法は異なりますが、ぜひ参考にしてほしいと思います。

効果の上がる学習法

- ・毎日規則正しく生活し、一定時間必ず勉強する。
- ・繰り返し反復学習をし、マスターしてから先に進む。
- ・教科書を丹念に予習、復習する。
- ・参考書は適度なものを選び、要点をノートにまとめる。
- ・テストの答えは必ずやり直し、綴じて整理する。

効果が上がらない学習法

- ・テスト前だけ猛勉強する。(しないよりはましですが)
- ・計画は立てるが、確実にマスターしないまま先に進んでしまう。
- ・教科書を重視せず、参考書に頼って勉強している。
- ・参考書を活用しても、アンダーラインを引いて安心してしまう。
- ・テストの答えは、点数だけを見て捨ててしまう。

ただし、生活習慣が一番大切なことです。朝はきちんと起きる。三食をきちんと食べる。遅刻をしない。当たり前のことですが、勉強もそこからスタートします。

こころの窓

人は、成功を経験したり、失敗を経験したりして成長していくものです。そんな中でも失敗の方が多いのではないのでしょうか？もちろん、成功することに越したことはありませんが、失敗した時の方が学ぶことや得ることが数多くあるものです。失敗した時の考え方や心構え次第で、その先が決まってくるものです。

機関誌「PHP」から的一篇を紹介いたします。

転んでも

「七転び八起き」ということわざがある。何度失敗しても、これに屈せず奮い立つ姿を言ったものである。

人生は長い。世の中は広い。だから失敗もする。悲観もする。そんな時、このことわざはありがたい。だが、七度転んで八度目に起きればよい、などと呑気に考えるならば、これはいささか愚である。

一度転んで気がつかなければ、七度転んでも同じこと。一度で気がつく人間になりたい。そのためには「転んでもただ起きぬ」心構えが大切。

このことわざは、意地きたないことの代名詞のように使われているが、先哲諸聖の中で、転んでそこに悟りを開いた人は数多くある。転んでもただ起きなかったのである。意地きたないのではない。真剣だったのである。

失敗することを恐れるよりも、真剣でないことを恐れた方がいい。真剣ならば、たとえ失敗しても、ただ起きぬだけの十分な心構えができてくる。

お互いに「転んでもただ起きぬ」よう真剣になりたいものである。